西白山台小

運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもの育成

～見通しと振り返りを生かした指導の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　原　　寿

１　研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

今年度は開校から４年間の蓄積を生かし、“With コロナから Post コロナの学校”を見据えて「一つの節目を作る年」になる。そのために、青森県及び八戸市の学校教育指導の方針を受けるとともに、児童や家庭・地域の実態を考慮して、目指す児童像に「夢や志の実現に向かって学び続ける人間性豊かな子ども」を掲げ、教育目標「心豊かに　たくましく　ともに学び合う子」の達成のため、継続して取り組んでいくことにした。

教育活動を展開していくにあたり、「体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習をすること」や「生涯にわたって心身の健康を保持促進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」を基本方針とする体育科の授業を中核に据えて研究を進め、日常の授業実践に反映させることにより、教育目標に迫ることができると考えた。

体育科を中核に据えて取り組んだ４年間の研究で、「組み合わせ単元」の有効性が検証でき、教員の授業のマネジメント力も向上した。今年度は、４年間の研究成果の上に「見通しと振り返りを生かした指導の工夫」をサブテーマに掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究を推進していくこととした。

(2) 児童の実態から

昨年度は「自らを高める子どもの育成」を研究テーマに掲げ、体育科における「対話的な学び」に焦点をあて、低・中・高学年ブロックで授業研究に取り組んだ。その成果として、「児童が意欲的に自己の課題を解決しようするための教員や友だちとの対話【指導方法】」「ねらいを達成するための振り返りでの対話【評価】」を教員同士で共有化することができ、授業のマネジメント力を高めることができた。しかし、コロナ禍の中で、技能を高めるための子ども同士の交流（教え合い）や教員が補助をする活動を十分に行うことができなかった。今後も「かかわり」を減らさざるをえない状況の中で、自己の課題解決のための効果的な場づくりやICT活用を進めていく必要がある。

そこで、今年度は、児童の運動に対する主体性を高め、全教員が体育科における授業のマネジメント力をさらに高めるために、「見通しと振り返り」に焦点をあてながら指導を工夫していく。児童が学習の見通しをもって粘り強く取り組んだり、自己の学習活動を振り返って次につなげたりすることで、児童一人一人が「できた」という達成感、「自分でもできる」という自己肯定感をもたせることができ、「自らを高める子どもの育成」につながると考える。

２　研究のねらい

運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもを育てるために、見通しと振り返りを生かした指導の工夫について、日常の授業実践を通して明らかにしていく。

３　研究仮説

運動や健康についての課題の解決のために、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることによって、すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める授業を目指すことができる。

４　研究内容

子どもの変容が見える授業づくりとして、以下の３点を示す。

(1) 体育科の授業での見通しと振り返りを生かした学習指導の検証。
(2) タブレット端末を効果的に活用した体育の授業についての検証。
(3) 研究協議会及び研究報告会で、児童の変容を検証。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者
6	9	第１回中学年ブロック授業研究（３学年「タグ取り鬼」「タグラグビー」） 授業者　講師　太田　俊
	24	第１回中学年ブロック研究報告会　３学年報告者　講師　太田　俊 ４学年報告者　教諭　吉田　悟
9	1	第２回低学年ブロック授業研究　（１学年「ねこちゃん体操」「マットを使った運動遊び」） 授業者　教諭　佐藤　光子
11	10	第２回低学年ブロック研究報告会　１学年報告者　教諭　佐藤　光子 ２学年報告者　講師　工藤　律子
12	3	第３回高学年ブロック授業研究（６学年「フラッグフットボール」） 【要請訪問】　授業者　教諭　大里　薫 〈助言者〉　八戸市教育委員会　教育指導課　主任指導主事　竹井　亮
1	11	第３回高学年ブロック研究報告会　５学年報告者　教諭　外舘　季和 ６学年報告者　教諭　大里　薫

(2) 一般研修

月	日	一般研修
8	20	普通救命救急法講習会（AED の扱い方と救命救急法について・エピペンの使い方） 講師　八戸消防署根城分遣所職員　養護教諭　工藤　亜紀子
9	8	１人１台端末ｅライブラリー講習会　講師　教諭　吉田　悟　講師　太田　俊
9	29	１人１台端末講習会　講師　八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三
10	20	特別支援教育に関わる研修会 授業者　教諭　夏坂 美保子　教諭　山下 由美子　教諭　櫻井 まき子

６　研究の成果

(1) 授業の最初に「見通し」をもたせることで、運動が苦手な児童も意欲的に取り組めるようになった。また、授業の展開・終末と適切に振り返りをすることで、児童同士の関わりが生まれ、ルールや運動の動きを理解することができた。
(2) １人１台端末を使って、ボール運動の様子を撮影することで、運動の課題についてチームで話し合うきっかけになった。また、児童同士で運動の様子を撮影し、みんなに紹介することを通して、学習意欲や自己有用感の向上につながった。
(3) 研究報告会では、ブロック毎に同じ題材で研究に取り組んだ。「タグラグビー」や「フラッグフットボール」など、ボール運動の場づくりやルールの工夫を学ぶ機会となった。

７　研究の課題

(1) 体育では運動量を確保するために１人１台端末を日常的に活用することができなかった。今後は、マット運動や陸上運動などで運動の様子を撮影し、自己を振り返ることも必要である。
(2) コロナ禍の中で、児童の運動技能を高めることが十分にできなかった。今後は、柔軟性を高めるために、授業の導入に、発達段階に応じた共通の運動に取り組む場を設定することも必要である。

（記入者　　吉田　悟）